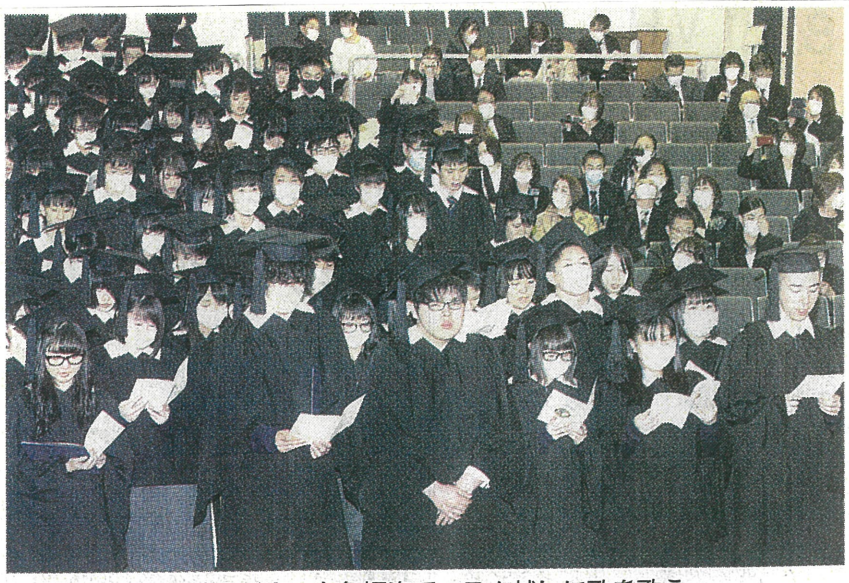
室蘭民報
2020年（令和2年）3月1日（日曜日）

クラス別、答辞放送、マスク、消毒液…

感染防止策徹底 2私立高卒業式



伝統のガウンと角帽姿でマスク越しに歌を歌う卒業生＝海星学院高

西胆振の高校のトップを切って、室蘭市内の北海道大谷室蘭、海星学院の私立2校で2月29日、卒業式があった。直前の28日夜、新型コロナウイルス対策として、道が緊急事態宣言を発表したことで難しい判断を迫られたが、感染防止策を徹底して開催にこぎ着けた。マスクを着用した出席者が会場を埋める中、卒業生は慣れ親しんだ学びやに別れを告げ、新たな一歩を踏み出した。

海星学院

海星学院高校（堺俊光校長）の第57回卒業証書授与式は、市内高砂町の同校ベネディクトホールであった。伝統のガウンと黒の角帽を身にまとった卒業生75人が父母らの拍手に迎えられ入場。ステージに登壇し、担任から名前を呼ばれると、「はい」と返事をして、堺校長から卒業証書を受け取った。

「お母さん、今まで支えてくれてありがとう」「産んでくれてありがとう」

感染防止のため、在校生の姿はなく、出席者の大半がマスク姿。どことなく重たい空気が漂う卒業式の雰囲気を変えたのは、ある男子生徒が発した母親への感謝の言葉だった。温度を持った言葉は良い意味で伝染する。観客席に向かって何人もの生徒が照れくさそうに「ありがとう」と頭を下げた。会場のマスク越しに笑顔が広がった。

卒業生代表の川端武士さんは「思春期の私たちは、なかなか素直になれず受け入れられないこともありました」と父母との関係を振り返り、「本当の自立に向け成長していきますのでよろしくお願いします」と答辞した。

堺校長は、時間を短縮するため式辞を書面に代えながらも、今後の情報社会を生き抜くために①自分の意見・考えを表現することで個性に気付く②得意なことを生かして役割を果たしながら存在価値を見いだせる―の2点を挙げ、「環境づくりを心掛けてほしい」と口頭で伝え、門出を祝福した。

会場には手指消毒液が用意され、マスクが配られた。例年は在校生で埋まる観客席には父母らが間隔を開けて座った。校歌や聖歌などの斉唱は1番の歌詞に限定。証書授与後の恒例だった校長との握手も取りやめ、式典は1時間足らずで終了した。

「緊急事態宣言が直前に出され、先生方は判断が難しかったと思う。よく開催してくれた」「マスク姿でかわいそうだったが、他では式が中止になったり保護者が参加できない学校もあると聞く。こんな形でも思い出に残るのでうれしい」。式後、保護者が発したのも、また感謝の言葉だった。

（野村英史）